

原子力安全を向上させる更なる取り組み（ロードマップ）



年度	2024	2025	2026	2027～			
1. ガバナンスの強化	<p>【2014】 中部電力グループ原子力安全憲章制定</p> <p>原子力安全向上会議 ・リスクの分析・評価、対応策の審議（他部門管掌役員も構成員として会議に参加）</p> <p>内部監査機能 ・リスクマネジメントの状況を内部監査部門がモニタリングし、結果を原子力安全向上会議に報告</p> <p>アドバイザリーボード ・社外の有識者の知見を安全性向上に向けた取り組みに活用</p> <p>全社リスクマネジメント ・全社リスク管理部署と原子力部門主管部署とのリスクコミュニケーションの強化</p>						
	<p>リスクマネジメントの推進（RIDM活用範囲の拡大）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの運用と継続的改善 リスクの特定、分析、評価およびリスク対応力の向上 ・発電所の運営におけるリスクマネジメントの展開 <p>リスクマネジメントの実効性向上、将来を見据えたプロセスの改善</p> <p>安全性向上対策および高度化PRAモデルを見据えたリスクマネジメントの高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国水準を目標とした高度化PRAモデルの整備、および国内外の知見や研究成果の調査、技術検討を活用した継続的改善 ・PRA技術者の継続的育成 <p>設備信頼性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成管理を通じた基盤の強化 <p>既存設備に係る設計基準文書の作成</p> <p>安全性向上対策を踏まえた継続的な構成管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態監視、系統健全性評価等を通じた保全の高度化 						<p>安全かつ効率的な発電所運営の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網羅的なリスクマネジメントの実践 ・リスク情報を活用した意思決定の実践
	<p>パフォーマンス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的なパフォーマンス監視と組織のパフォーマンス向上 ・目指す姿の浸透と個人のパフォーマンス向上 ・第三者レビューに基づく改善（WANO-PR、JANSI-PRおよびHaABS） ・JANSI、ATENA等の外部知見を活用した技術的基盤の強化 ・新知見・新技術の収集等による継続的な安全性向上の検討と『安全性向上評価』の実施 					<p>安全かつ効率的な発電所運営の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス監視の高度化および更なるパフォーマンス向上によるエクセレンスの追求 	
	<p>防災体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力災害に的確に対応するための組織、運営の検討・構築 <p>災害発生時の体制の整備</p> <p>組織、運営の継続的改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応組織（オンサイト・オフサイト）の実効性を高めるための継続的な訓練と検証 					<p>更なるリスク低減に向けた防災体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故収束活動の確実な実施 ・外部との的確・迅速な連絡・連携 	
	<p>安全文化の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な安全文化の醸成に関する活動の計画・実施、安全文化の状態の評価および継続的な改善 					<p>安全を最優先とする価値観の浸透、および原子力安全に対する責任の完遂</p>	
3. リスクコミュニケーションの強化	<p>社外リスクコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リスクマネジメントの強化」に関するコミュニケーションの実施 ・リスクの観点を踏まえたコミュニケーションの充実 ・地域をはじめ社会の皆さまとのコミュニケーションの機会の拡充 <p>安全かつ効率的な発電所運営の実践をはじめとしたコミュニケーションの実施</p>						
	<p>自治体とのコミュニケーション ・自治体の避難計画の具体化・充実化を図るための訓練等を通じた連携強化</p>						
	<p>社内リスクコミュニケーション ・原子力安全向上会議における議論を通じたリスクコミュニケーションの充実</p> <p>・グループ会社全体の原子力を含むエネルギー全般に関する理解促進</p>						

『PRA』とは、確率的リスク評価の略称であり、事故に至るリスクを定量的に示す手法です。機器の故障に起因する事故を評価対象とした内的事象PRAや地震、津波の影響による機器の故障を加味した地震PRA、津波PRA等があります。

『RIDM』とは、PRAから得られる知見をその他の工学的知見とともに考慮して意思決定する手法のことです。

『安全性向上評価』とは、原子力発電所の安全性向上を図るため、その安全性について自ら評価をすることです。また、その結果等については原子力規制委員会に届け出ることとされています。